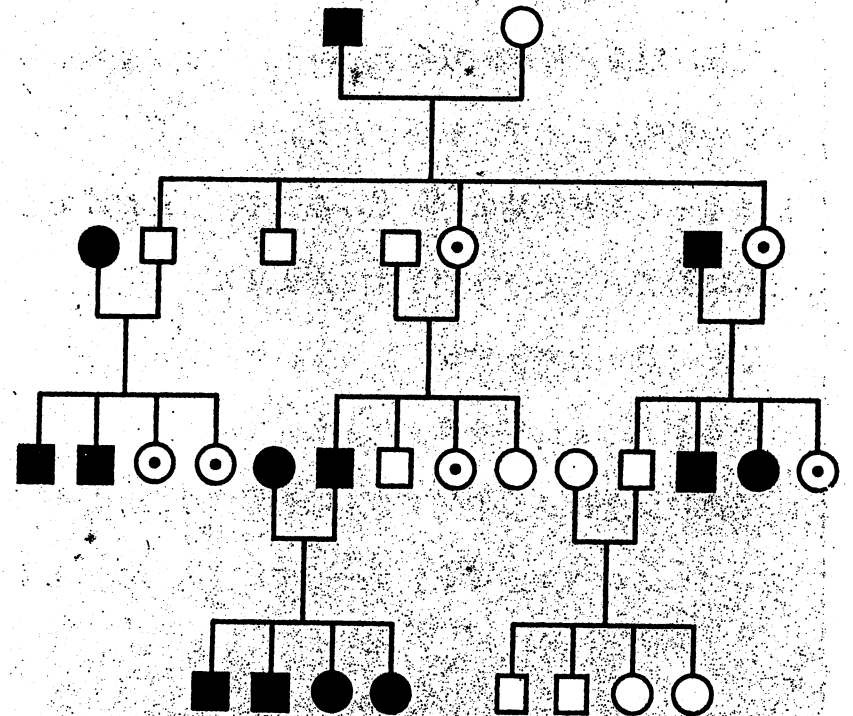


MEMO

明るい家庭

— 遺 伝 の 話 —



東京都衛生局

東京都 優生保護相談所

東京都 保健所

表紙は色盲の家系図

子供は両親に半分ずつ似ている

よく、娘は父親に、息子は母親に似るものだといわれますが子供は父親の精子と母親の卵子の結合によって出来るものなので、当然両親に半分ずつ似ているということになります。ただいろいろな理由から母親の方の影響が父親の方より多いといわれています。

父親に似るか母親に似るかということは普通顔だちなど外形的なことで、ちらっと表面からのぞくことの出来るところだけ見ていっているのです、これだけでどちらに似ているということとはできません。

まして顔かたちが父親に似てないから他人の子供だと邪推することは早合点というものです。

子供は父と母から半分ずつ遺伝物質（遺伝子）をもらっているのですから半分ずつ似ているものなのです。

精神薄弱の子供

日本では 100人中 2～3 人の子供が程度の差こそあれ精神薄弱だと推定されており、日本全体では約 2 百万人位いるといわれております。

その原因はいろいろあつて全部が遺伝的であるということではありません。

分娩の時の傷害、血液型不適合、小頭に伴うものといろいろあります。

遺伝のしかたについてはまだ完全なことはわかっておりません。

妊娠中に母親が重い病気にかかったときなども原因になりますから妊娠中は十分母体の健康に注意して下

さい。



色盲の遺伝

色盲には赤や緑の区別がつかない赤緑色盲と、めったにはありませんが全く色の区別のつかない全色盲とがあります。

赤緑色盲は女にはひじょうに少く千人に5人位、男は百人に5～8人位の割合です。

色盲の男は必ずその母親から受け継ぐもので、たとえ父親が色盲であっても全く関係がありません。

色盲の男は娘に半分だけ伝え決して息子には伝へません。

このように性に伴った遺伝を伴性遺伝といいます。

伴性遺伝には他にごく小さな傷からでも出血がとまらないで死んでしまうひじょうに不幸な病気の血友病というのがあります。

才能の遺伝

人間の才能は遺伝するものかも知れません。しかしエジソンやアインシュタイン、湯川博士でも生れた時から偉大な科学者ではありません。毎日毎日の努力、周囲の理解や援助などによったものです。

才能のある子供は遺伝的な組合せで生れるかも知れませんが、それより日常の教育や訓練がもっと大事なことではないでしょうか。

天才的な才能の持主もいなくはありませんが、このような何十万、何百万人に1人しか現われない天才的素質を自分の子供に期待するよりか今日のようなきびしい時代に生きるには平均した能力、あるいは平均より



や、上まねるようないろいろの知識を身につけてやるようにすることが親の大切なつとめではないでしょうか。

精神病の遺伝

遺伝で問題になる精神病は精神分裂病、そううつ病、てんかんなどです。

精神分裂病は割合世間に沢山ある病気で100人に1人位の割合です。大学生などもっとも多いといわれています。

この病気が遺伝であるという決定的なことはまだわかっておりませんが原因の一つが遺伝的なものであることは間違いありません。

精神分裂病の遺伝子をもっていれば必ず発病するかというともいえません。発病に関しては環境の影響というものが大きな役割をもっており、親が分裂病だったり、家族の中にそういう人がある時は子供を離して育てる方が安全です。

精神分裂病の人は子供を作らないようにすることが必要でしょう。

若はげの遺伝

年をとるとはげてくるのはわかりますが、ごく若い時代、時には10代の終りから20代のはじめ頃にほとんど頭の毛がなくなってしまうようなことがあります。

気をつけてみますと、ほとんどすべてが男であって女の若はげというのはありません、ホルモンだとかいろいろ理由があるでしょうがまだ十分にはわかっておりません。



優生保護相談所では毎月遺伝に対する講演会、座談会を開いております。

また個々のご相談については専門家をご紹介していただきます。